

概要版

佐賀県スポーツ推進計画
— スポーツで地域を元気に —

平成26年11月

計画の趣旨

(計画の趣旨)

- ◇ 概ね今後10年間（平成26～35年度）を見据え、佐賀県が目指す姿、スポーツ基本法の趣旨、国・県・市町・スポーツ団体等の役割分担を踏まえ、佐賀県のスポーツ推進の取組を体系的に整理し、総合的・計画的に推進する。
- ◇ この計画は、スポーツ基本法に規定する『地方スポーツ推進計画』として位置付ける。

(スポーツ推進の目的)

- ◇ スポーツの持つ多面的な効果（スポーツの“ちから”）を利用して、県民の「健康」「楽しみ・生きがいつくり」「コミュニケーション」を促進し、県民のくらしを豊かにする。

施策の柱

(目指す姿)

年齢、性別、障害の有無に関係なく、誰もが、それぞれのスタイルで、スポーツを楽しむことができる。

身近なスポーツ大会から世界レベルの国際大会まで、県内で様々なスポーツ大会やイベント等が開催され、県内外からの参加者と一体となって、地域が賑わっている。

(施策の柱)

スポーツの
ユニバーサル
デザイン化

スポーツ
による
地域の活性化

(スポーツの“ちから”)

スポーツは、

- ・心身の健康の保持・増進
- ・次世代を担う青少年の心身の健全な発達や人格の形成
- ・県民の楽しみ・生きがいつくりやコミュニケーションの促進
- ・人と人、地域と地域の交流促進による、地域の一体感や活力の醸成、地域経済の活性化や地域の情報発信

に寄与するとともに、

佐賀県ゆかりのアスリート・チームの世界や国内トップレベルの舞台での活躍は、県民に夢と感動、活力を与える

『スポーツのユニバーサルデザイン化』について

『スポーツのユニバーサルデザイン化』とは、「年齢、性別、障害の有無、様々な社会的な要素に関係なく、誰もが、それぞれのスタイルでスポーツを楽しむことができる環境をつくっていく」という意味です。

この中には、いわゆるトップアスリートにより行われる極めて競技性の高いスポーツはもとより、少年スポーツ、一般のスポーツ、障害者や高齢者のスポーツも全て含まれます。



スポーツのユニバーサルデザイン化

(1) スポーツに親しむ“きっかけ”づくり、 ライフスタイルやライフステージに応じたスポーツ推進

- ① トップレベルスポーツイベント等の誘致・開催
- ② 新しいスタイルの「スポーツ」や「スポーツの楽しみ方」の提案
- ③ 活動の成果を試す、発表する機会の創出
- ④ 事業所や職場におけるスポーツ参加機会の拡大
- ⑤ 障害者がスポーツに親しむ機会の拡充
- ⑥ ゲームメーカーというスポーツの参加形態の提案・推進

(2) 地域におけるスポーツ活動の活性化

- ① 運営の核となるリーダーやリーダーをサポートする人材の育成
- ② 心身の成長や発達段階に応じた適切なトレーニングや活動の促進
- ③ 少年期における多様なスポーツ体験・経験の促進
- ④ 障害者スポーツに関する指導者等の育成
- ⑤ 住民スポーツクラブの新たな役割・機能についての研究・提案

(3) スポーツ施設等のソフト・ハード両面からの利便性・機能性の向上

(4) 学校における子供の体育・スポーツ機会の充実

- ① 子供の体力向上方策に関する環境づくり
- ② 学校体育に関する環境づくり
- ③ 学校スポーツに関する環境づくり

(5) 平成35年国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の佐賀県開催 及び両大会の融合推進

(1) がんばるアスリートの支援（競技水準の向上）

- ① さがんアスリート等の支援、育成
- ② 指導者の育成、さらなる資質の向上
- ③ アスリートや指導者を支える関係者の育成、連携強化
- ④ 適性に合ったスポーツに出会う機会の設定
- ⑤ 効果的な育成システムの構築、練習環境の充実
- ⑥ 新しいスポーツ推進モデルの研究

(2) スポーツツーリズムの推進

- ① スポーツキャンプ・スポーツ合宿の誘致
- ② スポーツイベントの誘致・開催
- ③ 佐賀県の自然を活用したレジャー系スポーツツーリズムの推進
- ④ プロスポーツ等を活用した情報発信・佐賀県への誘客促進
- ⑤ スポーツを活用した特色ある地域づくりの推進
- ⑥ “おもてなし”のレベルアップ

(3) スポーツによる“地域づくり” “ひとづくり”の支援

- ① スポーツを核とした地域の絆・一体感づくり
- ② スポーツへの様々な関わり方の提案・推進

スポーツのユニバーサルデザイン化

(施策目標)

- ◇ 日常的にスポーツに親しむ県民を増やす（日常的にスポーツに親しむ障害者を増やす）
- ◇ 県民の誰もが、それぞれのライフスタイルやライフステージに応じ、継続してスポーツを楽しむことができるようにする
- ◇ 新しいスタイルのスポーツの楽しみ方として、スポーツに関するボランティア活動に参加する県民を増やす
- ◇ スポーツ活動への参加を通じた地域のコミュニケーションを促進する

(指標)

- ◇ 平成35年度までに
 - ・「週1日以上」運動やスポーツを行う成人の割合を50%以上にする
 - ・一年間のうちに運動やスポーツを「まったく行わない」成人の割合を20%以下にする
- ◇ 平成35年度までに、一年間のうちにスポーツに関するボランティア活動に参加したことがある成人の割合を25%以上にする

スポーツによる地域の活性化

(施策目標)

- ◇ たくさんの佐賀県ゆかりのアスリート・チームが、世界や国内トップレベルの舞台で活躍する環境をつくる
- ◇ アスリートやチームを支える関係者（コーチ、トレーナー、マネージャー、サポートスタッフ、外部の協力者・支援者など）を増やす
- ◇ 県内で様々なスポーツ大会やスポーツイベント等が開催され、県内外からたくさんの参加者や応援者が集まるようにする
- ◇ 国内だけでなく海外からも多くのチームやアスリートが、スポーツキャンプやスポーツ合宿で佐賀県を訪れるようにする

(指標)

- ◇ 平成35年度までに、佐賀県スポーツ賞優秀賞（全国大会3位以上）の受賞数を毎年80以上（人・チーム）にする
- ◇ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックで複数の佐賀県ゆかりのメダリストを輩出する
- ◇ 平成35年度までに、国内外からのスポーツキャンプ・スポーツ合宿の参加者数を年間延12,000人以上にする
- ◇ 2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプを誘致する

スポーツのユニバーサルデザイン化

(1) スポーツに親しむ“きっかけ”づくり、 ライフスタイルやライフステージに応じたスポーツ推進

「県民のスポーツ意識に関する調査」や「住民スポーツクラブ」の状況などをみると、県民のライフスタイルやスポーツへの関わり方が大きく変化、多様化しているなかで、これまでのスポーツの枠組やスポーツ推進の取組が、様々な変化や課題に対応できていない状況が浮かび上がってきます。

社会環境の変化や、県民のライフスタイル、スポーツの楽しみ方の変化・多様化を踏まえ、これまでのスポーツの概念やスポーツ推進の取組にとらわれず、幅広い視点から、新たな発想で取組を進める必要があります。

① トップレベルスポーツイベント等の誘致・開催

県民がトップレベルのプレーを間近に見る機会やトップアスリートと交流する機会を創出するとともに、スポーツが「楽しく」「おしゃれで」「カッコイイ」ものであるというイメージを持ってもらうことで、県民の皆さんがスポーツを始めたり、さらに高い目標にチャレンジする"きっかけ"や"動機付け"につながります。

<主な取組例>

- トップレベルスポーツイベント等の誘致・開催支援
- スポーツキャンプ・スポーツ合宿等の誘致
- ファッションや音楽などの若者文化にも影響があるエクストリームスポーツ（Xゲーム）系スポーツイベント等の誘致・開催支援
- さが桜マラソンの開催
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック、平成35年「国民体育大会・全国障害者スポーツ大会」の佐賀県開催に合わせたスポーツ機運の盛り上げ など

スポーツのユニバーサルデザイン化

② 新しいスタイルの「スポーツ」や「スポーツの楽しみ方」の提案

誰もが気軽に楽しむことができる新しいスタイルの「スポーツ」や「スポーツの楽しみ方」について、研究、提案、情報発信を行います。

<主な取組例>

- I C Tやゲームを活用した新しい運動・スポーツプログラムの研究・提案
- 誰もが気軽にできる運動やスポーツの普及
- 障害者スポーツ種目の普及（障害の有無に関係なく誰もが楽しむことができるスポーツの普及）
- スポーツを使った婚活イベント等の開催
- 年齢や年代、身体の状態等に応じた運動・スポーツプログラムの提案
- 県民体育大会、県障害者スポーツ大会、県ねんりんピックの融合推進 など

③ 活動の成果を試す・発表する機会の創出

様々なスポーツ活動を行う上で、単に練習やトレーニングを繰り返すだけでは面白くありませんので、スポーツを楽しみ、継続していくためには、日頃の活動や練習の成果を試したり、発表する機会が必要です。特に、新しい取組を始める場合には、こうした機会をつくっていくことも重要です。

<主な取組例>

- 地域のイベントや文化イベント等との連携による発表機会の創出
- 公民館、コミュニティセンター、保健センター等の事業との連携
- C S Oや民間企業等と連携した新たな活動の場の提案 など

スポーツのユニバーサルデザイン化

④ 事業所や職場におけるスポーツ参加機会の拡大

20代～50代の層を中心とした「仕事や子育てが忙しい」としてスポーツを行う機会が少ない層に対してスポーツを行う“きっかけ”づくりを進めるため、今日の社会やライフスタイルに合った形で職場におけるスポーツ参加機会をつくっていきます。

<主な取組例>

- スポーツインストラクター等の派遣
- スポーツ推進事業所宣言等の推進、事業所スポーツリーダー等の養成
- 職場単位によるスポーツイベントへの参加促進（競技への参加、応援、ボランティアなど）
- スポーツマイレージ運動等の推進
- ICTやゲームを活用した新しい運動・スポーツプログラムの研究・提案 など

⑤ 障害者がスポーツに親しむ機会の拡充

障害者がスポーツに親しむ“きっかけ”となる機会を拡充し、日常的にスポーツを行う障害者の増加につなげます。

<主な取組例>

- 障害者を対象としたスポーツ教室等の拡充
- 障害者の保護者や福祉関係者を対象としたスポーツ講習会の開催
- 一般のスポーツ指導者に対する講習会等の開催
- 障害者スポーツ支援機能や拠点機能の強化
- 障害者と健常者が、同じ場所で又は一緒に、スポーツを楽しむ機会の創出
- 障害者スポーツ種目の普及（障害の有無に関係なく誰もが楽しむことができるスポーツの普及）
- ICTやゲームを活用した新しい運動・スポーツプログラムの研究・提案 など

スポーツのユニバーサルデザイン化

⑥ ゲームズメーカーというスポーツの参加形態の提案・推進

新しいスタイルのスポーツの楽しみ方として「ゲームズメーカー」というスポーツの参加形態を提案・推進します。

競技者や観客と一体となって一緒にゲームをつくり・楽しむ「ゲームズメーカー」も、新しいスポーツの楽しみ方の一つと考えます。

<主な取組例>

- スポーツに関するボランティアへの参加の呼びかけ
- ゲームズメーカーに関する講習会等の開催
- ゲームズメーカーの普及に関する大学や関係団体等との連携強化
- さが桜マラソン等、参加型スポーツイベントの誘致・開催
- スポーツに関するボランティア情報の発信 など



ロンドンオリンピック・パラリンピックでは、ボランティアは「ゲームズメーカー」と呼ばれ、競技者や主催者と共に試合や大会をつくりあげる存在であった。

スポーツのユニバーサルデザイン化

(2) 地域におけるスポーツ活動の活性化

少年スポーツをはじめ、地域におけるスポーツ活動の主体は、ボランティアの指導者や地域の小学生、その保護者、住民などの自発的な参加で構成された住民スポーツクラブです。

住民スポーツクラブの活動が安全かつ活発に行われるよう、市町やスポーツ団体と連携して人材育成等を支援します。

① 運営の核となるリーダーやリーダーをサポートする人材の育成

住民スポーツクラブの運営の核となるリーダーや、周りでリーダーを支える様々な関係者（指導者、マネージャー、支援者など）の人材育成を推進します。

<主な取組例>

○市町や関係団体の実施する研修会など住民スポーツクラブの人材育成に関する取組への支援 など

② 心身の成長や発達段階に応じた適切なトレーニングや活動の促進

主に少年スポーツの場において、子どもの心身の成長や発達の段階に応じ、科学的知見に基づいた適切なスポーツ指導や活動が行われるよう、支援します。

<主な取組例>

○けがの防止や効果的なトレーニング方法等に関する知識の普及
○スポーツに関連した食生活や生活習慣について、子どもや保護者、指導者への普及啓発 など

スポーツのユニバーサルデザイン化

③ 少年期における多様なスポーツ体験・経験の促進

主に少年期において、様々なスポーツを体験・経験させることにより、様々な能力の向上や、その人の資質や適性にマッチしたスポーツに出会う機会とする取組を推進します。

<主な取組例>

- 住民スポーツクラブにおける体験会や交流会などの取組の促進
- 子どもの可能性を広げるスポーツイベントや体験会の開催支援 など

④ 障害者スポーツに関する指導者等の育成

障害者スポーツの指導者、サポートスタッフ、支援者を増やす取組を推進します。

<主な取組例>

- 一般のスポーツ指導者に対する障害者スポーツ講習会等の開催
- 障害児の保護者や福祉関係者を対象としたスポーツ講習会の開催 など

⑤ 住民スポーツクラブの新たな役割・機能についての研究・提案

新しいスタイルのスポーツやスポーツの楽しみ方を普及する場、学校の運動部活動を支援・代替する場、地域における障害者のスポーツの場としての住民スポーツクラブの可能性について研究・検討を行います。

<主な取組例>

- 住民スポーツクラブにおける新しいスタイルのスポーツの楽しみ方の試行や学校の運動部活動との連携強化
- 住民スポーツクラブが地域コミュニティの拠点となる取組の促進
- 放課後児童クラブ等における活動との連携 など

スポーツのユニバーサルデザイン化

(3) スポーツ施設等のソフト・ハード両面からの利便性・機能性の向上

誰もが安全・安心・快適にスポーツを楽しむことができる環境をつくっていくため、県が設置しているスポーツ施設等について、施設のユニバーサルデザイン化と併せて、順次、利便性・機能性の向上や県と市町の役割分担を踏まえた機能強化に取り組みます。

スポーツ施設のほか、公園、学校その他の公共施設等を含め、身近なスポーツの『場』として利用されている施設等のほとんどは、市町が設置していることから、市町が設置している施設等については、公共施設のユニバーサルデザイン化や防災機能の整備・強化などの検討と併せて、利便性や機能性の向上の取組が行われるよう促します。



スポーツのユニバーサルデザイン化

(4) 学校における子供の体育・スポーツ機会の充実

学校体育・スポーツは、人格の形成に大きな影響を及ぼすものであり、生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となります。

学校において子供たちが運動やスポーツ活動を通じて十分に体を動かして、スポーツの楽しさや意義・価値を実感できるよう子供の体育・スポーツ機会の充実を図るための環境づくりに取り組みます。

① 子供の体力向上方策に関する環境づくり

学校における体力向上には、体育・保健体育の授業や体育的活動の改善・充実、運動部活動の推進が欠かせません。そのために学校が適切に児童生徒の実態を把握し、体力向上に向け、家庭・地域と連携した取組を推し進めていくことができるよう支援します。

<主な取組例>

- 各学校における体力向上に向けた検証改善サイクルの確立への支援
- 幼児期における運動指針を踏まえた取組の研究
- 体力向上に向けた好事例による啓発
- 保護者に対する体力の重要性の理解促進
- 運動の成果をランキング形式で競い合う取組の充実
- ホームページを活用した情報の発信
- 体力・運動能力優良校の表彰 など

スポーツのユニバーサルデザイン化

② 学校体育に関する環境づくり

教職員の資質の向上や地域の外部指導者の活用等による体育・保健体育の授業の充実のため、研修会等の開催や県保健体育研究会へ支援します。

<主な取組例>

- 全国学校体育研究大会の開催による教職員の資質向上
- 安全でより効果的な指導の充実を図る学校体育指導者講習会の実施
- 地域の外部指導者との連携した体育・保健体育の授業の充実
- 学校間、校種間の兼務による指導の充実 など

③ 学校スポーツに関する環境づくり

運動部活動を充実させ、スポーツへの様々な関わり方ができるよう学校体育団体を支援します。また、中高校生の競技水準を維持、向上させるために指導者の資質向上や地域の外部指導者の活用、地域スポーツとの連携等を工夫するとともに、スポーツ機運の醸成と選手のモチベーションの向上を図ります。

<主な取組例>

- 拠点校や拠点施設を核とした合同練習の推進と地域スポーツの連携
- 学校におけるオリンピック・ムーブメントの推進
- 特別支援学校における学校体育団体の組織化の研究
- トップアスリートや定年退職などにより一線を退いた熟練指導者のノウハウの活用
- 外部指導者導入システム(校内体制)の整備
- 指導者の継続的な資質向上(技術的指導力、心理や栄養など幅広いマネジメント)
- 国内トップ指導者招聘による指導者研修会の開催
- 全国中学校体育大会、全国高等学校総合体育大会の開催による機運の醸成
- 更なる生徒減少に対する運動部活動運営形態の研究 など

スポーツのユニバーサルデザイン化

(5) 平成35年国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の佐賀県開催 及び両大会の融合推進

佐賀県で開催する平成35年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会は、年齢、性別、障害の有無に関係なく、誰もが、それぞれのスタイルで、スポーツを楽しむことができる環境をつくる「スポーツのユニバーサルデザイン化」や「スポーツによる地域の活性化」を推進する大会として、両大会の融合推進に取り組みます。

「共生社会」「ユニバーサルデザイン社会」にふさわしい新しい形の大会のあり方を提案するとともに、佐賀県をいろいろなアスリートはもとより、子供連れ、外国人、障害者、高齢者等にとっても、訪れやすい・住みやすい地域にしていく必要があります。

<主な取組例>

- 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の融合推進
- 新しい形の大会のあり方の提案
- 様々な社会基盤のユニバーサルデザイン化の推進
- 平成35年国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の佐賀県開催に向けた佐賀県の情報発信、スポーツ機運の盛り上げ など



スポーツによる地域の活性化

(1) がんばるアスリートの支援（競技水準の向上）

国民の注目度の高い舞台での佐賀県ゆかりのアスリートやチームの活躍は、県民に、夢と感動、活力を与えるとともに、県民の皆さんが、新たにスポーツを始めたり、スポーツ以外のことも含めて、さらに高い目標や新しいことにチャレンジする“きっかけ”にもつながります。

こうしたことから、世界を目指すアスリートを支援するとともに、スポーツ団体等が行う競技水準向上の取組を支援します。

なお、個々の具体的な取組に当たっては、県としての政策目的を踏まえ、随時、状況を評価し、改善・見直しを行いながら、成果につなげていく必要があります。

① さがんアスリート等の支援、育成

オリンピック・パラリンピック・デフリンピックの大会等を目指すアスリートや、その予備軍となるアスリートの活動や育成を支援します。

<主な取組例>

- オリンピック・パラリンピック・デフリンピックに日本代表として出場を目指す選手を『さがんアスリート』として認定し支援
- 日本選手権などの国内大会で上位の成績を残し、今後、世界大会への出場を目指す選手を『さがんチャレンジアスリート』として認定し支援
- スポーツ団体等が行う国内の各競技最高峰の大会で入賞者を輩出するための強化事業への支援 など

スポーツによる地域の活性化

② 指導者の育成、さらなる資質の向上

県内で行われる育成の中心は、主に中学生や高校生の世代となることから、これらの世代層を中心に指導する指導者の育成やさらなる資質の向上に取り組めます。

<主な取組例>

- 県内の指導者を国内外の優れた指導者のもとへの派遣、日本オリンピック委員会、中央競技団体等が実施する研修会への派遣
- 国内外の優れた指導者を招き、直接、指導者へのアドバイスや選手への指導を受ける機会を創出 など

③ アスリートや指導者を支える関係者の育成、連携強化

アスリート、チーム、指導者を支える様々なスタッフ・関係者（コーチ、マネージャー、サポートスタッフ、外部の協力者・支援者など）の育成・充実、連携強化に取り組めます。

<主な取組例>

- スポーツドクター、トレーナー、薬剤師、栄養士などスタッフ専門研修の支援
- スポーツドクターやトレーナーなどの大会への派遣 など

スポーツによる地域の活性化

④ 適性に合ったスポーツに出会う機会の設定

主に少年期において、様々なスポーツを経験・体験することで、様々な運動能力のアップにつなげるとともに、本人の希望や意思を前提として、それぞれの資質や適性に合ったスポーツに出会う機会をつくります。

<主な取組例>

- 住民スポーツクラブにおける体験会や交流会などの取組の促進
- 子どもの可能性を広げるスポーツイベントや体験会の開催支援
- トップスポーツチームによる地域活動の推進
- トップレベルスポーツイベント等の誘致・開催支援（県民がトップレベルのプレーを間近に見る機会やトップアスリートと交流する機会の創出） など



スポーツによる地域の活性化

⑤ 効果的な育成システムの構築、練習環境の充実

関係機関・団体等と連携して、効果的な育成システムの構築やトレーニング環境の充実に取り組みます。「指導者の育成やさらなる資質の向上」「アスリートや指導者を支える関係者の育成・充実」等と併せて取り組むことで、相乗効果が期待できます。

<主な取組例>

- 高い目標を目指してレベルアップするための効果的な育成システムの研究、日常的な練習環境の充実
- 佐賀県のアスリートが世界や国内トップで活躍するためのトレーニング環境の充実
- 県有スポーツ施設の利便性・機能性の向上、県と市町の役割分担を踏まえた機能強化 など

⑥ 新しいスポーツ推進モデルの研究

アスリートの活動支援や指導者の育成等に当たっては、佐賀県で育った様々なアスリートが、佐賀県をベースに活動したり、第一線を引退後に指導者として佐賀県に戻ってくることができたりするような取組を進めることも必要です。

スポーツビジネスやアスリートのセカンドキャリアのことを含めて、新しいスポーツ推進モデルを研究します。

<主な取組例>

- アスリートのキャリアを生かしたスポーツ活動の取組の研究
- クラウドファンディングなど資金調達方法の研究 など

スポーツによる地域の活性化

(2) スポーツツーリズムの推進

佐賀県でトップレベルのスポーツイベント（大会・ゲーム）やスポーツキャンプ・合宿が行われることは、スポーツへの関心を高めるとともに、佐賀県の情報発信、イメージアップ、活性化につながります。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで、事前キャンプを実現するためには、佐賀県のような社会基盤や"おもてなし"のレベルを世界水準にしていく必要があります。

こうした取組は、「スポーツのユニバーサルデザイン化」や、佐賀県の"おもてなし"のレベルアップ、「まちづくり」・「地域づくり」にも大きく寄与します。

① スポーツキャンプ・スポーツ合宿の誘致

県外や海外からのスポーツキャンプ・スポーツ合宿の誘致に取り組みます。

特に、国際大会に出場する各国代表のナショナルチームによる事前キャンプや一般・メディアの関心の高い大学や実業団などのトップレベルのチーム・アスリートによる強化合宿などを積極的に誘致します。

<主な取組例>

- スポーツキャンプ・スポーツ合宿の受け入れ体制の整備と誘致促進
- 海外のナショナルチームによるキャンプ誘致 など



スポーツによる地域の活性化

② スポーツイベントの誘致・開催

国内、海外から、様々なスポーツイベント（大会・ゲーム）を誘致し、佐賀県の情報発信や、県民がトップレベルのアスリート、またそのプレーに直接触れる機会の創出につなげます。

さらに、継続して開催される参加型のイベントの開催を増やし、スポーツ人口の拡大や、県外からの参加による交流人口の拡大、地域の活性化を図ります。

<主な取組例>

- トップレベルスポーツイベント等の誘致・開催支援
- ファッションや音楽など若者文化にも影響があるエクストリームスポーツ（X系ゲーム）系スポーツイベント等の誘致・開催支援
- さが桜マラソンなど、参加型スポーツイベントの誘致・開催支援
- 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の佐賀県開催 など

③ 佐賀県の自然を活用したレジャー系スポーツツーリズムの推進

サイクリング、トレッキング、"オルレ"、サーフィン、パラグライダーなど、佐賀県の自然を活用したレジャー系のアウトドアスポーツに関する情報発信や、これらによる佐賀県への誘客を推進します。

<主な取組例>

- レジャー系スポーツに関する情報発信
- 観光部門や旅行会社と連携したスポーツツアーの提案 など



スポーツによる地域の活性化

④ プロスポーツ等を活用した情報発信・佐賀県への誘客促進

佐賀県のプロスポーツチームや企業スポーツチームに関する情報発信等を通じて、佐賀県のイメージアップや佐賀県への誘客を促進します。

佐賀県のスポーツチームの、世界や国内トップレベルの舞台、とりわけ国民・県民の注目度の高い舞台での活躍は、県民に活力を与えるとともに、佐賀県の情報発信やイメージアップにつながります。

また、佐賀県で開催されるホームゲーム等に県内外からたくさんのサポーターや観客が訪れ、一体となって盛り上がることで、地域の活性化にも寄与します。

<主な取組例>

- トップレベルのリーグで活躍する県内スポーツチームに関する情報発信
- 県内で開催されるホームゲーム等の広報支援 など

⑤ スポーツを活用した特色ある地域づくりの推進

市町等のスポーツを活用した特色ある地域づくりを支援します。

スポーツツーリズムを推進するためには、ツーリズムの目的地として佐賀県を選択する動機付け、「このスポーツを楽しむのなら、佐賀県」という環境やイメージづくり、メッセージの発信が必要です。

「年齢、性別、障害の有無に関係なく、誰もが、それぞれのスタイルでスポーツを楽しむことができる環境をつくっていく」、「日常的にスポーツを楽しむ県民を増やしていく」ためにも、それぞれの地域が、地域の特色を活かした「ご当地スポーツづくり」や「スポーツによる"まちづくり"」に取り組むことは、有効と考えます。

<主な取組例>

- 市町のご当地スポーツづくりの支援
- 文化や観光、“まちづくり”に関する施策との連携強化 など

スポーツによる地域の活性化

⑥ “おもてなし”のレベルアップ

関係団体、民間、市町等と連携しながら、スポーツを通じた佐賀県の“おもてなし”のレベルアップに取り組めます。

外国人や障害者のトップアスリート・チームの事前キャンプの誘致に当たっては、佐賀県の様々な社会基盤や“おもてなし”のレベルを世界水準にしていく必要があります。

スポーツツーリズムの取組を推進することは、佐賀県の“おもてなし”のレベルアップにもつながります。

<主な取組例>

- 関係団体、民間、市町等と連携による受入体制の整備
- 文化や観光、“まちづくり”に関する施策との連携強化 など

スポーツによる地域の活性化

(3) スポーツによる“地域づくり” “ひとづくり”の支援

スポーツは、様々な楽しみ方があり、また、世代を超えた触れ合いの輪も広がりやすいものです。

スポーツを通じて地域の人々が交流したり、一体となって盛り上がったりすることは、希薄化が指摘されている住民どうしのコミュニケーションの増加や地域コミュニティの再生にも大いに寄与します。

また、地域のスポーツチームがトップレベルのリーグで活躍することは、次代を担う子どもたちの夢を育てるとともに、地域の絆や一体感を深め、スポーツ人口のすそ野の拡大や地域の活性化につながります。

スポーツに触れる多くの機会や誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境をつくるとともに、地域に根差したスポーツ文化の醸成につながる取組を進める必要があります。

① スポーツを核とした地域の絆・一体感づくり

地域のスポーツチームの活躍について情報を発信することにより、応援機運を醸成し、全県的な盛り上がりを図ります。また、トップスポーツチームによるスポーツ教室や地域交流イベント等を支援し、スポーツを核とした地域の一体感の醸成を図ります。

<主な取組例>

- トップレベルのリーグで活躍する県内スポーツチームに関する情報発信
- トップスポーツチームによる地域活動の推進 など

スポーツによる地域の活性化

② スポーツへの様々な関わり方の提案・推進

スポーツに触れ親しむ人を増やし、新たな人のつながりを地域に広げることが、地域コミュニティの活性化につながります。

地域のスポーツ活動を支える人材育成の支援や、観客として応援に参加したり、ゲームズメーカー等として大会に参画したりするなどスポーツへの様々な関わり方の提案などにより、地域でスポーツに関わる人を増やします。

また、スポーツボランティアについては、単に運営を支える支援スタッフということではなく、選手や観客と一体となって積極的にゲームに参加し、一緒にゲームをつくり・楽しむという、新しいスポーツの楽しみ方を提案します。

<主な取組例>

- 研修会等による人材育成（団体のリーダー、指導者、マネージャーなど）
- さが桜マラソン等、参加型スポーツイベントの誘致・開催支援
- ゲームズメーカーの普及に関する大学や関係団体等との連携強化 など

